

1 基本項目	事務事業名	地域資源を生かしたまちづくり事業			担当 部署 署	課名	企画政策課	
	予算事業名	地域資源を生かしたまちづくり事業				係名	地域資源推進班	
	事務区分	自治事務				電話番号	0765-23-1067	
	事業期間	開始年度	平成22年度	終了年度		当面継続	会計	一般会計
	総合計画	目標名	基本目標 1 にぎわい、活力あるまち			款	総務費	
	画	政策名	5 交流と連携によるにぎわい創出			項	総務管理費	
	根	施策名	9 観光の振興			目	企画費	
拠	基本事業名	9-1 観光資源のブランド力向上と整備			アウトソーシング導入状況	導入予定なし		
法	令				総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載		

2 事業概要	事業概要	地域資源の一つに挙げられる北陸職業能力開発大学校と共同研究事業を進め、同校の存在と技術を市民や産業界に紹介し、地域活性化に繋げる。また、富山大学との包括的連携協定に基づき、大学の知を地域活性化に役立てる。
	対象	北陸職業能力開発大学校、富山大学、市内外住民、市内外企業
	手段 (活動指標)	北陸職業能力開発大学校との共同研究を進め、学校と地域のつながりを強化する。富山大学の地域貢献分野を活用する。
	意図 (成果指標)	より広く北陸職業能力開発大学校の技術を知ってもらい、同校と民間企業の連携を深める。富山大学の知を地域活性化に役立てる。

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動 指標 成果 指標	① 研究課題	件	2	2	1	1	100.0%	1
	②							
	③							
	① 北陸能開大と民間企業の共同研究	件	10	10	10	10	100.0%	10
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出 内訳	①需用費	円						
	②委託料	円	328,222					
	③工事請負費	円						
	④負担金補助及び交付金	円			1,296,000	1,296,000		1,296,000
	⑤その他	円	900,676	935,778	200,000			200,000
	支出合計 (A)	円	1,228,898	935,778	1,496,000	1,296,000	38.5%	1,496,000
財源 内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円						
	③地方債	円						
	④その他 (使用料、雑入等)	円	400,000	400,000	200,000			
	⑤一般財源	円	828,898	535,778	1,296,000	1,296,000	141.9%	1,496,000
	収入合計	円	1,228,898	935,778	1,496,000	1,296,000	38.5%	1,496,000
人件 費	①事務事業に携わる正規職員数	人	2	3	2	3	0.0%	3
	②年間所要時間	時間	400	1,000	400	900	-10.0%	900
	③人件費 (②×@ 4,200 円) (B)	円	1,680,000	4,200,000	1,680,000	3,780,000	-10.0%	3,780,000
総費用 (A+B)	円	2,908,898	5,135,778	3,176,000	5,076,000	-1.2%	5,276,000	

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	平成23年度から取り組んでいる市民バス位置情報システムは2路線を追加し、8路線となった。現在、それらの路線のバス位置情報はHPなどで確認が可能であるが、より簡単に利用者が知ることができるよう、表示システムを新たに開発し、利用者の多い商業施設に設置した。	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
	妥当性	B	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である		
目的の妥当性				1 妥当である			
対象の妥当性				1 妥当である			
有効性	B	A	目標達成度	2 目標どおり			
			類似事業の有無	1 なし			
			上位施策への貢献度	1 高い			
効率性	A	A	コスト効率	1 高い			
			実施主体の適正化	1 適正である			
			負担割合の適正化	1 適正である			
1次評価 (課長総括)	B	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要		
後(課題及び今)	評価結果	この事務事業では、主に北陸職業能力開発大学校との共同研究事業を中心に予算化しているが、これまでバスロケーションシステムなどが実用化に結びついており、大きな成果が得られている。大学校と市との共同研究にとどまらず、市内の企業等との連携につなげることが望まれる。			評価結果		

1 基本項目	事務事業名	観光イベント支援事業			担当 部署 署	課名	商工観光課	
	予算事業名	観光イベント支援事業				係名	観光係	
	事務区分	自治事務				電話番号	0765-23-1025	
	事業期間	開始年度	昭和40年代	終了年度		当面継続	會計	一般
	総合目標名	基本目標1 にぎわい、活力あるまち				算科	款	7. 商工費
	政策名	5 交流と連携によるにぎわい創出				目	項	1. 商工費
	施策名	9 観光の振興				目	目	4. 観光費
基本事業名	9-1 観光資源のブランド力向上と整備			アウトソーシング導入状況	導入予定なし			
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載			

2 事業概要	事業概要	イベント開催に対し支援を行うことにより、市内外からの観光客誘致の向上を図り、市全体の活性化を目指す。
	対象	市内を代表する各種イベント実施団体
	手段(活動指標)	じゃんとこい魚津祭り、戦国のろし祭り、イルミラージュUOZU、魚津の朝市、魚津漁火まつりに対し補助を実施。観光客入込数の増加を目指す。
	意図(成果指標)	県内外からの観光客誘致

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標	① 補助金額	円	7,770,000	8,270,000	8,550,000	8,550,000	100.0%	7,370,000
	②							
	③							
成果指標	① イベントにおける観光客入込数(実績は観光客入込数調査票 イベントより)	人	237,000	249,678	250,000	251,561	100.6%	250,000
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円						
	②委託料	円						
	③工事請負費	円						
	④負担金補助及び交付金	円	8,270,000	8,270,000	8,550,000	8,550,000	3.4%	7,370,000
	⑤その他	円						
	支出合計(A)	円	8,270,000	8,270,000	8,550,000	8,550,000	3.4%	7,370,000
財源内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円	500,000	500,000				
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円						
	⑤一般財源	円	7,770,000	7,770,000	8,550,000	8,550,000	10.0%	73,700,000
	収入合計	円	8,270,000	8,270,000	8,550,000	8,550,000	3.4%	73,700,000
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	4	4	4	3	-25.0%	3
	②年間所要時間	時間	900	900	900	1,000	11.1%	1,000
	③人件費(②×@ 4,400円)(B)	円	3,960,000	3,960,000	3,960,000	4,400,000	11.1%	4,400,000
	総費用(A+B)	円	12,230,000	12,230,000	12,510,000	12,950,000	5.9%	11,770,000

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	じゃんとこい魚津まつり、戦国のろし祭り、イルミラージュUOZU、魚津の朝市、漁火まつりに対し補助を実施。観光客の誘客増加を図る。	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
	妥当性	妥当性	B	C	自治体関与の妥当性	2 検討の余地あり	過去からの慣例で補助金の支出が行われている事業もある。もういちど事業内容を精査する必要がある。
目的の妥当性					1 妥当である	市内のイベントを活性化し、観光客等の獲得につなげるという目的は地域の活性化に不可欠であるため。	
対象の妥当性					2 検討の余地あり	過去からの慣例で補助金の支出が行われている事業もある。もういちど事業内容を精査する必要がある。	
有効性	有効性	B	B	目標達成度	2 目標どおり	詳細な数値は出ていないが、目標と比べて大幅な増減はない。	
				類似事業の有無	2 検討の余地あり	補助内容としては、地区振興の補助事業等で支出が可能なものもある。	
				上位施策への貢献度	2 普通	各イベントを目的に市外から訪れる人も多く、観光客の獲得に貢献していると考えられるため。	
効率性	効率性	B	C	コスト効率	2 普通	対象団体にもよるが、費用対効果が決して高くはないと考えられる事業、団体もある。	
				実施主体の適正化	2 改善の余地あり	各イベントの目的に差がある。事業の趣旨である「観光客の誘致」という目的に合致するかどうかを精査する必要がある。	
				負担割合の適正化	2 改善の余地あり	対象団体、金額について、もう一度精査する必要がある。	
	1次評価(課長総括)	B	C	補助基準・要綱について見直しが必要	2次評価	不要	【選択してください】
	後(課題及び今後の評価結果)	実施団体への助言等を行いながら、イベントをより効果的な事業として展開していくことが重要である。				評価結果	

1 基本項目	事務事業名	観光資源強化事業			担当部署	課名	水族博物館	
	予算事業名	観光資源強化事業				係名	管理係	
	事務区分	自治事務				電話番号	0765-24-4100	
	事業期間	開始年度	平成26年度	終了年度		平成27年度	會計	水族館事業特別会計
	総合計画	目標名	基本目標 1 にぎわい、活力あるまち			款	1. 水族館費	
	画	政策名	5 交流と連携によるにぎわい創出			項	1. 水族館費	
	根拠法令	施策名	9 観光の振興			目	1. 水族館管理費	
	基本事業名	9-1 観光資源のブランド力向上と整備			アウトソーシング導入状況	導入予定なし		
					総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載		

2 事業概要	事業概要	北陸新幹線開業に合わせて、魚津水族館の魅力向上を図るとともに、首都圏からの来訪者に魅力をアピールし、魚津市への観光客誘致につなげる。
	対象	①入館者
	手段(活動指標)	テレビ、新聞、雑誌等への広告掲載 新コーナー設置
	意図(成果指標)	入館者数の増

3 指標	指標名	単位	26年度		27年度			28年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標	① 年間入館者数	人	150,000	144,991	150,000	152,152	101.4%	150,000
	②							
	③							
成果指標	① 入館者の前年対比	%	100	77	100	105	105.0%	100
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	26年度		27年度			28年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円	600,000	168,912				
	②委託料	円	3,000,000	2,359,152	903,161	903,161	-61.7%	
	③工事請負費	円						
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円	5,013,000	4,222,644	1,200,000	618,300	-85.4%	
	支出合計(A)	円	8,613,000	6,750,708	2,103,161	1,521,461	-77.5%	0
財源内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円						
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円	8,613,000	7,050,708	2,103,161	1,521,461	-78.4%	
	⑤一般財源	円						
	収入合計	円	8,613,000	7,050,708	2,103,161	1,521,461	-78.4%	0
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	5	4	4	4	0.0%	
	②年間所要時間	時間	1,500	1,860	1,860	1,860	0.0%	
	③人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	6,300,000	7,812,000	7,812,000	7,812,000	0.0%	0
	総費用(A+B)	円	14,913,000	14,562,708	9,915,161	9,333,461	-35.9%	0

5 取組内容	平成27年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	<ul style="list-style-type: none"> ○魚津水族館CM製作・放送(旅チャンネル) ○北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅タッチパネル式広告 ○北陸三水族館館合同キャンペーン ○テングノタチ、ユキフリソデウオ、ダイオウイカレリーフ制作 ○スマホARアプリ ココアルツ導入 ○のぼり旗制作 ○入口看板設置 	

6 評価	評価の視点	H26評価	H27評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	ニーズを踏まえて行っている
対象の妥当性					1 妥当である	魚津市の観光客誘致につながっている
有効性	有効性	A	A	目標達成度	1 高い	入館者数に反映している
				類似事業の有無	1 なし	水族館から情報発信し観光客の誘致に努めている
				上位施策への貢献度	1 高い	魚津市への観光客誘致につながっている
効率性	効率性	A	A	コスト効率	1 高い	コスト効率が低い事業を行っている
				実施主体の適正化	1 適正である	水族館から情報発信し、魚津市全体の観光客の増加を図っている
				負担割合の適正化	1 適正である	北陸新幹線開業に合わせた期間限定事業のため
	1次評価(課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	0
	後(課題)評価結果(及び今)	入館者数は対前年比105%であった。アサランの子供の誕生や、暖冬によって後期に入館者が増えたが、通年では、北陸新幹線開業は負の効果となった。しかし、物品販売を兼ねたPR戦略により、販売品額は大きく伸びている。これからもニーズをとらえた販売品を展開し、宣伝でも、来館者の増加を図れるようタイミングをみて宣伝していく。				評価結果